



まほろばだより

2019
March
vol.28

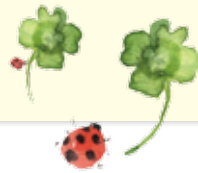
公立大学法人 奈良県立医科大学 女性研究者支援センター

第28号



Contents

- ④ Information 1 4月1日より当センターの名称が「女性研究者・医師支援センター」に変わります
- ④ 消化器・総合外科学講座 長井美奈子先生が日本肝胆膵外科学会のInternational Observership Programによる留学制度に選出されました
- ④ ハラスメント防止研修を実施しました
- ④ Information 2 ハラスメント防止研修希望部署を募集します
- ④ FD・SD講演会「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」を開催しました
- ④ 県民健康増進支援センター 富岡公子特任准教授が国際ソロプチミスト奈良一あすか女性研究者賞を受賞されました
- ④ 研究支援員配置制度を利用して～在宅看護学 栗田麻美助教～
- ④ Information 3 研究支援員配置申請の対象者について



>> Information 1

4月1日より当センターの名称が「女性研究者・医師支援センター」に変わります

女性研究者支援センターは平成23年2月に設立されました。同年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」に選定され、その後3年間は主として補助金による運営を行ってまいりましたが、平成26年度からは法人予算で運営しています。

設立当初から、「女性が働きやすい、働きがいのある職場」は、「男性にとっても働きやすく、働きがいのある職場」であるとの基本的な考えのもと、女性研究者はもとより本学に籍を置く教職員の皆さまや学生が、能力を發揮し活躍できるような職場・教育環境の整備に尽力してきました。平成27年度からは、センターの活動内容により即した名称が必要と考え、英語名をCenter for Diversity and Inclusion(CDI)としています。

今後は、本学の女性研究者のうち多くを占める医師に対して、より一層の研究支援や職場環境の整備を行うことをめざし、センターの日本語名を平成31年4月1日から「女性研究者・医師支援センター」に変更致します。

名称変更後も設立当初からの基本方針を忘れることなく、全ての教職員に貢献できるよう取り組んで参りますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

センター長 車谷 典男 (前列左から3番目)
 マネージャー 須崎 康恵 (前列左から2番目)
 事務職員 川村 裕香 (後列左端) 事務職員 津守 利枝 (後列中央)
 《事務局：研究推進課》
 課長 福益 孝行 (前列左端) 課長補佐 鉄村 仁 (前列右端)
 係長 村上 真也 (後列右端)



>> Report 1

消化器・総合外科学講座 長井美奈子先生が日本肝胆膵外科学会のInternational Observership Programによる留学制度に選出されました

【長井先生からのコメント】

この度、日本肝胆膵外科学会のInternational Observership Programによる留学制度に選出され、今夏よりアメリカのJohns Hopkins大学に留学する機会をいただきました。世界一の大学で学ぶことのできる、またとない貴重な機会であり、非常に嬉しく光栄に思っています。このProgramに推薦して下さった庄教授はじめ、留学期間中サポートして下さる教室の先生方に感謝いたします。限られた時間の中で、できるだけ多くのことを学び、成果をあげられるように全力で取り組みたいと思っています。

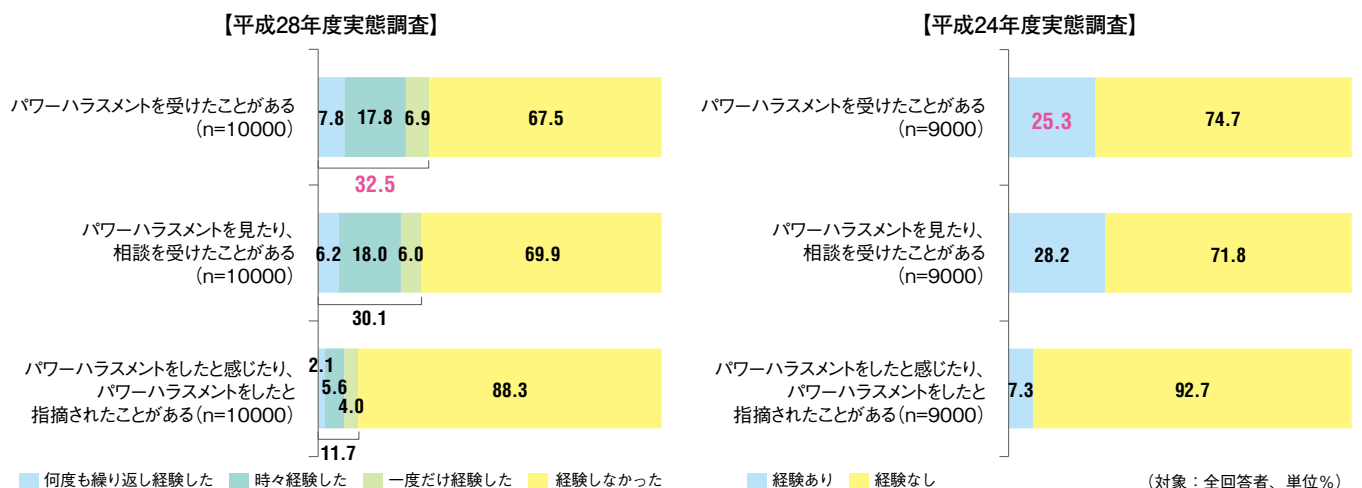


Report 2 ハラスメント防止研修を実施しました

女性研究者支援センターでは、平成23年度から教職員を対象としたハラスメント防止研修会を毎年開催しています。平成28年度厚生労働省委託事業「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書」によると、パワーハラスメントを見たり相談を受けたことがある労働者の割合は30.1%、パワーハラスメントを受けたことがある割合は32.5%と、平成24年度の調査と比較しても改善は認められない状況です(図1)。本学のハラスメントに関する実態調査は、全教職員を対象とした「ワークライフバランス推進のためのアンケート調査」で実施しています。平成26年度の調査では、看護師と医療技術職員の45%以上が、ハラスメントを見聞きした経験があると回答し、30%近くがハラスメントを受けていると感じた経験があると答えており、本学の中では有意に高い結果でした(図2)。また医師では、臨床研修医の44.2%がハラスメントを見聞きした経験があると回答しており、本学勤務医師の中では有意に高い結果でした。ハラスメントを受けていると感じた経験に関しても、臨床研修医の25%、4人に1人が経験があると回答しています(図3)。指導を受ける機会が多い臨床研修医には、指導とパワーハラスメントの違い等、ハラスメントに関する理解を深め、臨床研修医を指導する医師には、ハラスメントとならない指導法を修得していただく必要があると考えます。

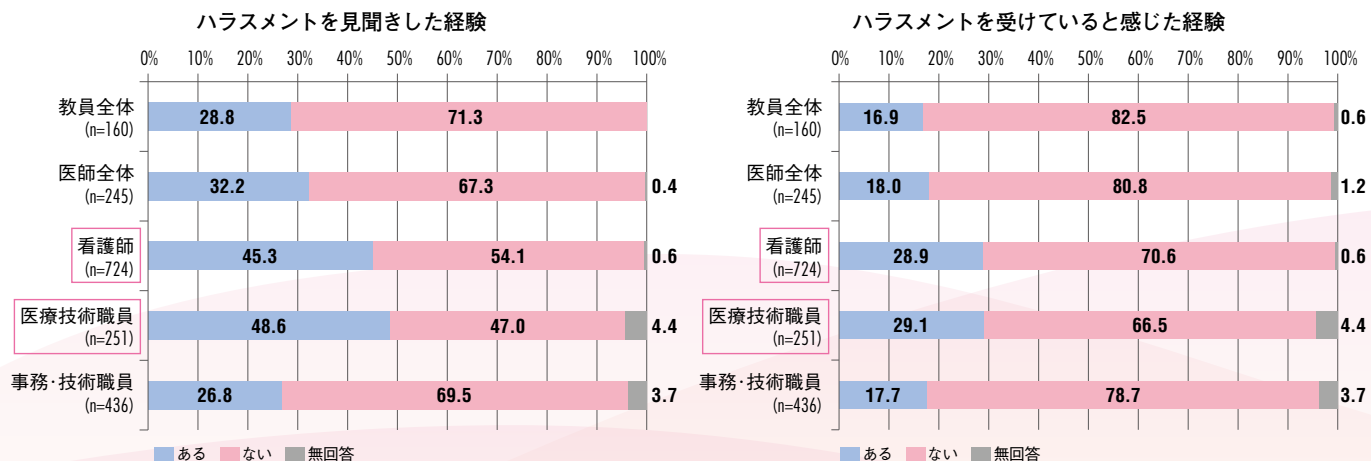
以上のことから本年度は、臨床研修医および臨床研修医を指導する立場となる医師を対象にハラスメント防止研修を実施しました。11月3日(土)、平成30年度奈良県立医科大学附属病院臨床研修指導医養成講習会にて、女性研究者支援センターの須崎康恵マネージャーが、各種ハラスメントの無自覚的加害行為について実例を交えた講演を行いました。また、2月6日(水)、平成30年度臨床研修医ステップアップ研修では、公益財団法人21世紀職業財団から講師を招き、医療現場で起こり得る上司からのパワーハラスメント、医師から他職種に対するパワーハラスメントについて、グループワークを交えて研修を実施しました。臨床研修指導医養成講習会の参加者からは、「自分も容易にハラスメントの加害者になり得ることがわかった。」、「ハラスメントの具体的なイメージができた。」、「ハラスメントのグレーゾーンの難しさを痛感した。」といった感想を多数いただきました。

図1 日本のパワーハラスメントの現状



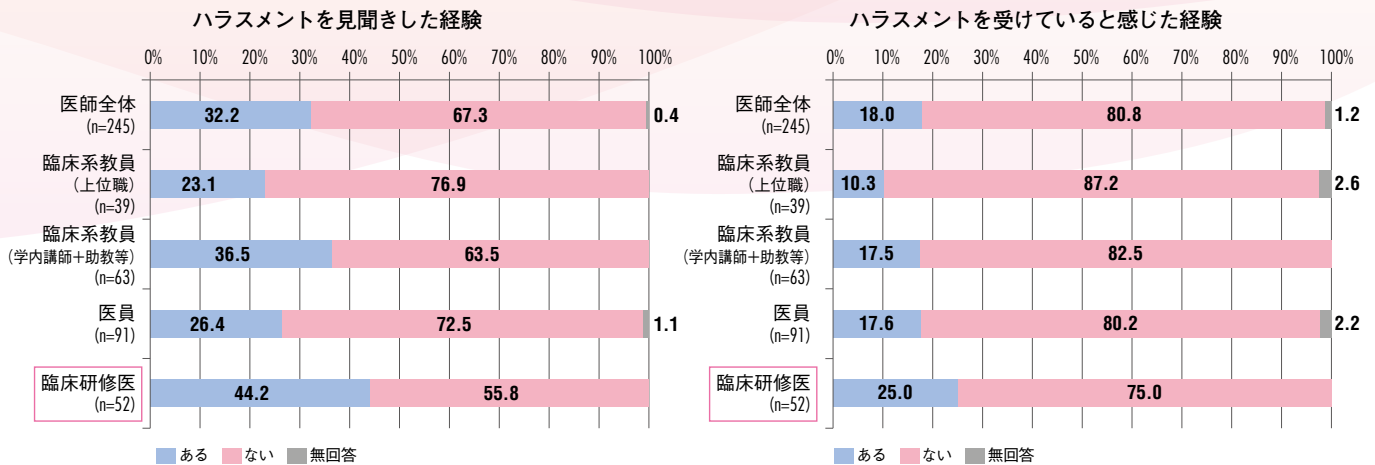
平成28年度 厚生労働省委託事業「職場のパワーハラスメントに関する実態調査報告書」

図2 奈良県立医科大学におけるハラスメントの現状



平成26年度 奈良県立医科大学「ワークライフバランス推進のためのアンケート調査結果報告書」

図3 奈良県立医科大学勤務医師のハラスメントの現状



平成26年度 奈良県立医科大学「ワークライフバランス推進のためのアンケート調査結果報告書」



臨床研修指導医養成講習会 (11月3日)



平成30年度臨床研修医ステップアップ研修 (2月6日)



公益財団法人
21世紀職業財団 深海氏

Information 2

ハラスメント防止研修を希望される部署を募集します

女性研究者支援センターでは、希望のある部署を対象に、平成29年度からは部署別のハラスメント防止研修会を開催しています。大学・附属病院の全部署が対象です。この研修会は、ハラスメントについての理解を深め、職場環境の改善を促すことを目的としています。30名程度(人数は要相談)の比較的少人数で、30分程度であれば実例を交えた講演と質疑応答の形式、1時間以上確保できる場合は、グループワーク形式でのハラスメント防止研修の提供が可能です。いずれの形式においても、部署の抱える個別の課題やニーズに沿った受講者参加型の研修会を実施できるように工夫しています。希望される部署がありましたら、当センターまでご相談ください。



Report 3

FD・SD講演会「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」を開催しました

平成30年11月15日(木)に教育開発センター・人事課と共催でFD・SD講演会を開催しました。講師に筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター佐々木銀河准教授をお招きし、「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」と題してご講演いただきました。

国公立大学では、障害者差別解消法により障害学生への合理的配慮の提供が義務化されていることが説明され、合理的配慮の事例を動画も交えながらご紹介いただきました。講義後のアンケートでは「発達障害の学生への対応がよく分かった」「今後の学生との接し方の参考にしていきたい」といった感想がありました。

女性研究者支援センターでは、今後も多様な人材が活躍できる環境づくりを目指して啓発活動を続けていきたいと思っております。



>> Report 4

県民健康増進支援センター富岡公子特任准教授が 国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました

ソロプチミスト日本財団では、さまざまな分野で将来性のある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の躍進への足掛かりとなる機会を与えることを目的に女性研究者賞を授与されています。

この度、本学県民健康増進支援センター富岡公子特任准教授が「健康長寿につながる社会参加を疫学研究によって明らかにする」という研究テーマで国際ソロプチミスト奈良―あすか女性研究者賞を受賞されました。



>> Report 5

研究支援員配置制度を利用して～在宅看護学 栗田麻美助教～

私は、平成29年10月から1年半の間、研究支援員配置制度を利用させていただきました。以前より、制度は知っていたのですが、在宅看護学の小竹教授から勧めただき、思いきって申請することができました。夫の単身赴任もあり、子供を育てるのに日々精一杯で、研究になかなか手が付けられない状況が続いていました。現在は、「がん終末期在宅療養者における訪問看護師の臨床判断の実際」のテーマで、今後も需要が増える訪問看護において、エキスパートの訪問看護師の判断力の実際について明らかにし、どのように判断力を高めていけるかの示唆を得たいと考えています。

同じ在宅看護学領域の大学院生の西本さんが支援員として働いてくれたおかげで、訪問看護師のインタビューデータのテープ起こしや文献の整理をお願いする時も、意思疎通が図りやすく、大変助かりました。

また、月末に女性研究者支援センターに報告書を提出する制度が、あっという間に過ぎてしまうひと月を振り返る機会ともなり、次の月に向けて決意を新たにすることができました。

本学の女性研究者支援制度に深く感謝申し上げますと共に、今後も女性研究者の支援活動の継続と活用が広がっていくことを願っております。



写真左：栗田先生、写真右：西本さん

>> Information 3

研究支援員配置申請の対象者について

研究支援員配置申請の対象者を以下の通り拡大しています。

本学に所属する常勤の女性教員（教授、准教授、講師、助教）、診療助教及び研究助教で、以下に当てはまる方

- (1) 妊娠から出産までの期間の方
- (2) 子育て中で小学校6年生までの子供を自身で主に養育している方
- (3) 要介護者・要看護者である家族を自身が主に介護・看病している方

(4) 不妊治療中の方

← 平成30年9月6日より拡大



[編集後記]

当センターは新年度を向かえる4月1日より組織名称が変わり、新たなスタートを切ります。センター一同、気持ちも新たに教職員にとって働きやすい、働きがいのある職場づくりに貢献できるよう取り組んで参りたいと思います。

当センターの公式ホームページ「まほろば」では、研究支援員配置などの支援制度の紹介、講演会のご案内、女性研究者の受賞や発表情報など様々な情報を掲載しています。ぜひ一度ご覧ください！

HPアクセスはこちら→



[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL：0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代)内線：2525
E-mail：jshien@naramed-u.ac.jp

